

## もくじ

1. きつねの嫁入り ..... 2
2. わらしべ長者 .....28
3. ねずみのすもう .....46
4. いっすんぼうし .....64
5. 三枚のおふだ .....84
6. キツネとクマ ..... 112
7. たぬきの恩返し ..... 130

# よめい きつねの嫁入り

原作： 日本のお話

イラスト： すずどん

編集： YellowBirdProject



それから三日後。いよいよ長者ちやうじゃの家いえに、娘むすめが嫁とついでくる日ひが  
きました。

日が暮くれて、長者ちやうじゃの家いえの者ものたちが、花嫁はなよめの到とつ着ちやくを待まっている  
と、やがて通とおりの向むこうから、たあくさあんの灯ちかりが近ちかづいてくるのが  
見みえました。

「おお！花嫁行列はなよめぎようれつがきたぞ！」

矢太郎やたろうが行列ぎようれつの先頭せんとうに立たち、次つぎに花嫁はなよめの乗のったかかご。後あとは提灯ちやうちん  
を持もった若者わかものや、嫁入り道具よめい どうぐを積つんだ馬うまなどが、延々えんえんと続つづいていま  
した。

あまりにみごとな行列ぎようれつに、その場ばにいた者ものたちはみな声こえを  
失うしなっていました。





いっすんぼうし      はり   けず   ちい   かたな  
おじいさんは一寸法師のために、針を削って小さな刀を  
つく      りっぱ   きもの   つく  
作り、おばあさんは立派な着物を作りました。

たび   じゅんぴ   ととの  
こうして、旅の準備が整いました。

い      げんき  
「それでは行ってきます。おじいさん、おばあさん、お元気で」

まえ   き   い  
「お前も、気をつけて行くんだよ」

いっすんぼうし      かわ   う      ふね   の  
一寸法師は、川に浮かべたおわんの舟に乗って、おじいさんと  
おばあさんに手を振りました。





あたま つの は おそ かも  
 するとそこでは、頭に角を生やして、恐ろしい顔をした  
 ほうちょう と  
 おばあさんが、包丁を研いでいたのです。

やまんば やまんば いえ  
 (あれは山姥だ!・・・そうか、ここは山姥の家で、  
 く  
 あいつはおいらをとって食うつもりなんだ!)

とつぜん やまんば  
 突然、山姥がさげびました。

「だれだ、そこにいるのは!」

「ひい!あ、お、おいら、その・・・ちょっと、

おも べんじよ  
 しょんべんにいこうと思って。便所はどっちだ!？」

べんじよ いえ そと こや  
 「便所だと?家の外の小屋だ。さっさと行ってこい。

に かんが  
 逃げようなんて考えるなよ・・・」

